

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	神学部
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 聖書学(旧約聖書学・新約聖書学)、歴史神学、組織神学(宗教哲学を含む)、実践神学の4構成(領域)において、研究演習担当教員への任用を促進し、学生が選択する研究テーマの広がりに対応できる研究教育組織を構築する。	→研究演習担当者の追加任用(2011年度までに1名)。	C	B	B		
2. 担当の見直しを行い、上記4領域の教員が、「キリスト教神学・伝道者コース」ならびに「キリスト教思想・文化コース」の双方を担当することを分かりやすく明示する。	→担当者を含めた履修モデルの作成と公開(WE B等の広報媒体への掲載、履修指導への反映[心得に掲載]) (2012年度までに作成・公開)	B	B	B		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2011年度に新たに研究演習担当者を1名(准教授)任用した。また2012年度に1名(助教)を採用するに至っている。しかしながら、2011年度末をもって1名の退職者(定年退職を除く)があり、現在新たに2013年度採用者を公募中である。よって、研究演習担当者の追加任用も含め、全体的な研究教育組織の充実という点では足踏み状態にある。
☆ 目標2	履修モデルは公開され、学生の履修に活用されている。領域担当と履修コースの関係、特に「キリスト教思想・文化」における明示については、「分野別演習(3年次必修)」-「特殊研究演習(4年次必修)」-「卒業論文(4年次選択)」の流れのなかで、FD研修、カリキュラム検討委員会(学部)などで再度議論・検討を行っているところである。
備考	